

■ 課題への対応 参考例

【総務班／マスコミ対応】

- 受付を設け、身分、取材目的を明らかにしてもらう。
定時記者発表の時間を決め、大きく貼りだす
それ以外の時間帯は原則として取材は受け付けない
- 入居者数、入居者の居住地（市町村、町丁目ごとに何名程度か）、避難生活（時期）の見通し、困っていることなどの基本的情報はA4用紙1枚程度にまとめ、報道陣に提供する
- マスコミ対応は副本部長または総務班長等に一元化する
- 避難所内での個人への取材は断る。外で、個人に対し取材依頼を行うことは容認する。ただし、目に余る状況であればそれも断る
- 立ち入り禁止スペースを明確に通知する

【情報班／掲示する情報、掲示板管理等】

- 災害および被害の状況（今後の余震、津波、豪雨の恐れ、などを含む）行政の対応、復旧の見通し、ライフラインおよび交通機関の状況、生活情報（給水車の予定時刻、風呂開設状況。スーパー、病院、郵便局、銀行、商店の開業状況など）、学校再開情報、近隣避難所の様子 他
- 安否確認情報については別途対応する（原則非公開）
- 上記の情報（安否情報を除く）と、運営本部関係情報（避難所生活ルール含む）、個人の情報交換とを区別して掲示場所を決める。
- 情報班が定期的に更新する。災害対策本部情報などは定時に入手に努める
- 掲示板の管理は副本部長または情報班長とし、情報の入手先・入手時間を明示する
- 情報交換（ベビーシッター求めています等）については原則自由とするが、内容によっては情報班が掲示不許可、ないしは撤去できるようにルール化する
- 真偽の確認できない情報は、原則として掲示させない
- 「噂話」「根拠のない情報」については否定する、ないしは正しい情報を掲示する
- 誤った情報が伝わった場合には「訂正情報」の伝達に努める

【ボランティア班///

どのようなボランティアを要請するか】

- 運営委員会のアドバイザー、補助役のできる経験豊かなボランティア（数名でよい）
- 物資の運搬、仕分け、食事（炊きだし）補助、駐車場の整理など、実働にあたるボランティア
- 名簿の作成、連絡などパソコン、事務処理能力のあるボランティア
- 看護師、薬剤師、福祉関係者などの専門的技量のあるボランティア

※避難所によってニーズが異なる

【居住組】

- 高齢者の食事・・・カセットコンロ、鍋を使い「おじや」にする
- 子どもが情緒不安定・・・教員、教諭、保育士（OB）など子どもの世話を慣れた人をさがす
- 子どもの面倒を・・・基本的には身内、親戚で。長期化した場合、ボランティアが担当することもある
- 見舞客、外来者・・・受付をしっかりとる。居住空間には入れない。受付に近いところに「面談室」を設ける
- 赤ちゃん・・・乳幼児のいる若い家族には体育館ではなく教室を順次開放する。
ミルク、ほ乳瓶等がなければ災害対策本部へ依頼。

仙台市立五橋中学校・避難所の運営記録

(東日本大震災)

■ 開設から3日目まで

- 避難所運営に関し、2年間事前協議等なかった。
- 指定動員職員2名決められていたが、応援なし。
- 仙台市地域防災計画では避難所管理運営は青葉区役所災害対策本部となっていたが・・・
- 当初、体育館は卒業式の準備完了し解放の予定なし。武道館を解放したが避難者が増え続けたため教室、体育館も解放。【推測約2000名が毛布もなく一夜を明かす】
- 避難者名簿の作成ができなかった。
- 私立病院から心臓病患者や市内のホテルから宿泊者の移送があった。
- タイ人の方から知人の呼び出しや、外国人から「避難所滞在証明書」の発行依頼があった。
- 日本赤十字の方が避難者の健康状態の確認等で来校。

■ 避難所の管理・運営について

- 避難者の特徴
 - ・ 学校近隣に勤める会社員、帰宅困難者、旅行客が多い
 - ・ ペットと屋外で一夜を過ごした
 - ・ 初老の男性が飲酒し、迷惑をかけた
 - ・ 人探しの呼び出し依頼が200件以上あった
- 保健関係
 - ・ 私立病院が「重症患者のみ」を治療の対象にしたため、病状が軽易な患者が搬送されてきた
 - ・ 体育館に避難していた人から体調不良者が続発
 - ・ 「いつも飲んでいる薬がきれた」
保健室には風邪薬はあるが、血圧や動脈硬化の薬は無い
 - ・ 高熱患者が出たため、集団から隔離した
- 自宅居住者（在宅避難者）にも支援を・・・
 - ・ 避難所が一杯なので遠慮して自宅にいる
 - ・ 食料の配布を、自宅で過ごしている方にもして欲しい